

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果

嘉麻市教育委員会 学校教育課

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象の学年

小学校及び義務教育学校第6学年（以下、小学校という）、
中学校第3学年及び義務教育学校第9学年（以下、中学校という）

3 調査の内容

- ① 教科に関する調査：小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学
- ② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査
[児童生徒に対する調査、学校に対する調査]

めざせ！全国平均正答数超え！！



- 上記のグラフで表示している数値は、全国の平均正答数を100とした場合の標準化得点です。全国との比較では、小学校において、国語（-3P）、算数（-1P）、中学校において、国語（-5P）、数学（-5P）の差でした。

【成果】

- 令和5年度との比較では、小学校において算数が1P上昇しました。しかし、小学校の国語は-2P、中学校の国語-1P、及び数学は-2Pでした。

【課題】

- 各学校とも基礎基本の定着が課題です。また、問題にある資料が示すものや考え方を読み取り条件に沿って答えを導き出す思考力や、様々な情報をもとに自分なりの考えを述べる表現力に課題が見られます。
- 各学校とも全国と比較して四分位学力層のC・D層の割合が高い状況にあります。C・D層の児童生徒への個別の学習支援の在り方について、継続して工夫・改善を図る必要があります。

【改善策】

- 基礎基本の定着を図るために、家庭学習の充実や帯学習の取組など、組織的な学力向上の取組を各学校において行います。
- 思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくり、話し合いにより考えを深める授業づくりを推進することで、思考力、表現力の育成を図ります。
- トリプル80（全単元テストの80%以上において、正答率80%を達成した児童生徒が、学級の80%以上にすることをめざす）を視点を単元テストを評価することを通して、一人一人の学習の定着状況を見とるとともに、習熟度別指導など、個に応じた授業づくりを推進し、C・D層の児童生徒の学力向上を図ります。